

# 認知症イノベーションアライアンスWG 令和6年度 第1回 事務局資料

## 今後の認知症イノベーションアライアンス ワーキンググループの取組について

経済産業省 ヘルスケア産業課

# 認知症イノベーションアライアンスWG：令和6年度協議内容

- 認知症イノベーションアライアンスWGは、認知症の人の尊厳・想いを尊重しながら、産業、公的機関、医療、福祉等様々なステークホルダーと連携し、イノベーション創出に向けた検討を行う場。
- 令和6年度は、当事者参画型開発モデルの普及、事業者向け開発ガイダンスの策定・普及、研究開発の推進等の論点についての進捗を報告し、必要とされる認知症施策について議論。

## 令和6年度委員選定および開催日程・方法

- 座長 … 東京大学 岩坪教授
- 委員 … 28名（学識、企業、当事者等）
- オブザーバー … 厚生労働省等
- 第1回：令和6年11月19日@ウェブ開催
- 第2回：令和7年2月頃

## 認知症イノベーションアライアンスWG（事務局：経産省、日本総研）

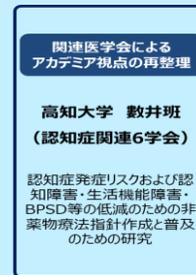
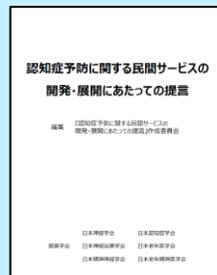
### ①当事者参画型開発モデルの推進

#### オレンジイノベーション・プロジェクトの推進



### ②認知症予防市場の環境整備

#### 認知症関連6学会による「提言」や「指針」の整備



### ③研究開発の促進

#### 共生・予防等に関してエビデンスを構築する実証事業を支援



# **当事者参画型開発モデルの推進**

## **議題 1 : 今年度の取組状況等の報告**

# 当事者参画型開発の取組の目的

- 認知症の人が企業の開発プロセスに「参画」し、企業とともに新しい価値を生み出す「共創」を行う「当事者参画型開発（=オレンジイノベーション・プロジェクト）」を推進。
- 本取組の目的は、共生社会の実現に資する質の高いソリューションが創出される仕組みの構築。

## 当事者参画型開発の取組み

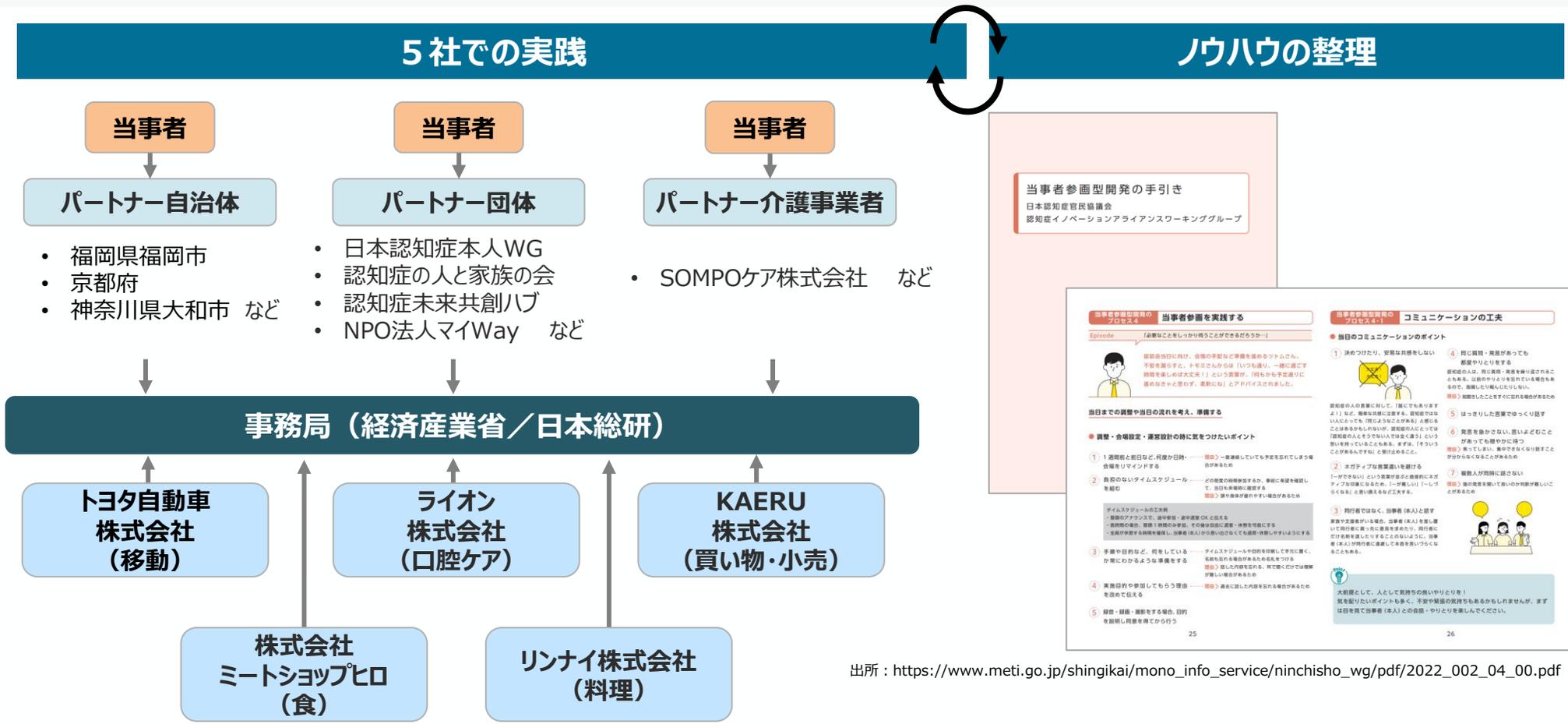


## 本取組における「当事者参画」、「参画」、「開発」の定義・考え方

- 本取組における「当事者参画」とは、「製品やサービスに対するニーズをもつ**認知症の人自身が、協力の意思を持って**、それらの製品・サービスの開発プロセス（企画、実施、評価等）に『参画』すること」と定義する。
- 認知症の人の主体的な協力意思を伴わない、一方的な観察や意見聴取は「当事者参画」とは言えない。**
- 「認知症の人のニーズを反映した製品・サービス」であること条件として、認知症の人の意見が製品・サービスの「コアあるいはそれに近い部分」への反映を意図したものである必要がある。
- ここでの「開発」は**新しい製品・サービスの創出だけでなく、既存の製品・サービスを認知症の人の意見をもとに改良することも含む。**

# 2022年度（令和4年度）までの取組状況

- 本プロジェクトは、2020年度に検討を開始し、2022年度までは、認知症の人が抱える生活課題の解決に関心がある企業5社を対象に、当事者とのマッチングを通じた共創（＝当事者参画型開発）の支援を実施。
- 実践から得た学びやヒアリング等によって得た当事者参画型開発に関するノウハウを整理し、「企業向け手引き」として取りまとめた。

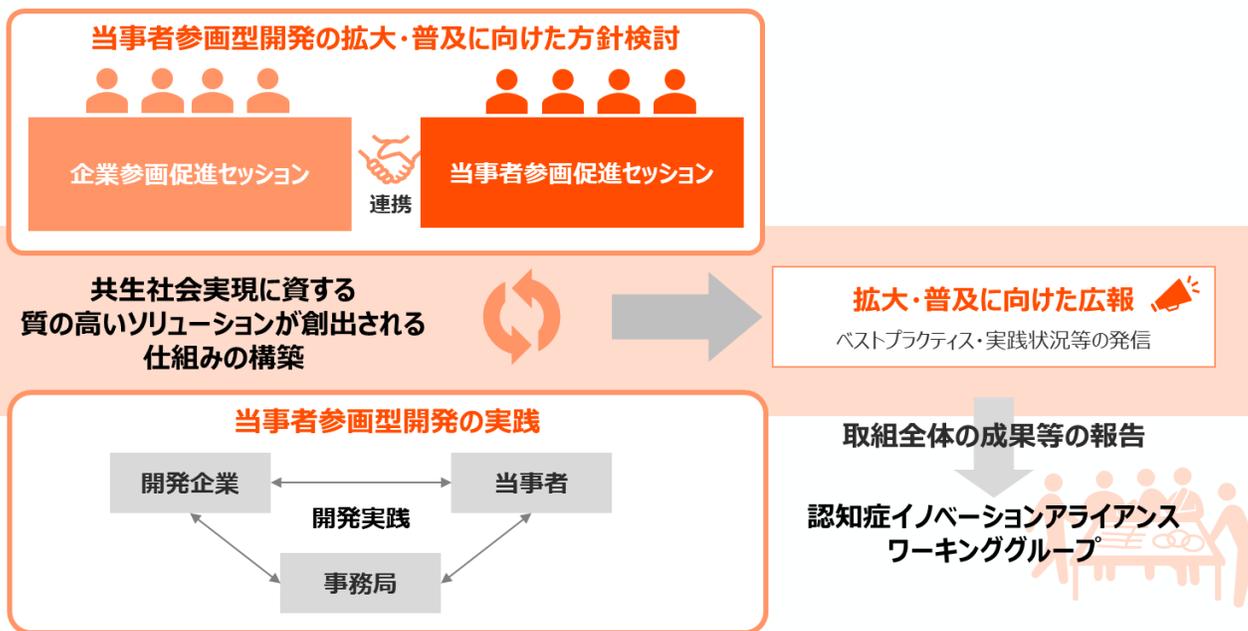


出所： [https://www.meti.go.jp/shingikai/mono\\_info\\_service/ninchisho\\_wg/pdf/2022\\_002\\_04\\_00.pdf](https://www.meti.go.jp/shingikai/mono_info_service/ninchisho_wg/pdf/2022_002_04_00.pdf)

# 2023年度（令和5年度）の取組状況

- 昨年度（2023年度）は当事者参画型開発の実践の継続・拡大を図るとともに、2つの会議体（企業参画促進セッション、当事者参画促進セッション）を設置して認知症の人・企業の関心喚起・参画促進に関する検討を実施。
- 認知症の人のやりたいことの実現や困りごとの解決に資する製品・サービスの開発に取り組む企業・団体を公募し、福岡市で実践を行う3社を含めて、計20の企業・団体と取組を推進。

## 昨年度（2023年度）の取組の全体像



## 20の企業・団体での実践



# 2024年度（令和6年度）の取組状況

- 今年度も認知症の人のやりたいことの実現や困りごとの解決に資する製品・サービスの開発に取り組む企業・団体の公募を実施。46の企業・団体を採択した（2022年度:5社⇒2023年度:20社⇒2024年度:46社）。

※外部有識者からなる審査会（非公開）において採択可否を検討

## 令和6年度 オレンジイノベーション・プロジェクト 実践企業・団体（46企業・団体）



# 各社が開発している製品・サービスの概要（1 / 3）

- 各社は、多様な生活課題を対象に当事者参画型開発を実践。

生活課題	企業・団体名	開発している製品・サービスの概要
買い物・小売り	KAERU株式会社	使いすぎ防止やワンタッチカード停止などの機能を搭載したキャッシュレスサービス「KAERU」
	株式会社マイヤ	認知症になってもやさしいスーパー スローショッピング
	株式会社イトーヨーカ堂	誰にとっても使いやすい「みんなのパジャマ/ステッキ/ルームシューズ」
移動	トヨタ自動車株式会社	誰もが不安なく外出できる徒歩用道案内サービス「ツギココ」
	LOOVIC株式会社	ご本人と身近な人でつくる、コエを用いた安全・安心の外出を支援する無人ナビガイド
食・料理	株式会社セブン&アイ・フードシステムズ	当事者の声を踏まえた、ファミリーレストラン「デニーズ」のメニューブックなどの改良
	西部ガス株式会社	誰でも安心して使えるガスコンロ「SAFULL+（セifulプラス）」
	リンナイ株式会社	
口腔ケア	ライオン株式会社	生涯を通じて、よく食べ、話し、笑い、自分らしく居続けられるために役立つ製品・サービス
趣味・学び	株式会社さくらほりきり	誰もが簡単に完成度の高い作品が作れる手作りキットと、好きな時に見られる作り方の動画サービス
	株式会社第一興商	誰もが一緒に楽しめる音楽コンテンツサービス「FREE DAM」
	株式会社テコデコドリーム研究所	思い出の写真と楽しい会話でふたたび輝く人生まるごと回想アルバム
	大塚製薬株式会社	当事者の理解を深めるための体験型介護支援VRトレーニングプログラム「FACEDUO（フェイスデュオ）」
	株式会社welzo	「老いるを楽しむ」社会の実現に向けた園芸サービスとユニバーサルデザインの園芸グッズ
生活・住環境	TOTO株式会社	多様な利用者に配慮したパブリックトイレ

# 各社が開発している製品・サービスの概要（2 / 3）

- 前頁の続き。

生活課題	企業・団体名	開発している製品・サービスの概要
衣服・靴	株式会社大翻	かかとも、左右・前後ろもない、履き口がわかりやすい靴下「Unicks」
	株式会社フェリシモ	裏表・前後のないTシャツ・ズボン・ソックス
	YKK株式会社	誰もが簡単に開閉・着脱ができるファスニング商品
	豊島株式会社	当事者が使いやすい衣料品、日用品
	株式会社チヨダ	手を使わずに、立ったまま、スパッと履ける「スパットシューズ」
運動・身体活動	株式会社CogSmart	脳と身体の健康のため、自分の好きな運動や身体活動をサポートする「BrainUp」アプリ
	株式会社ルネサンス	五感からの刺激や身体を動かすことで、楽しく、笑顔で脳を活性化する「シナプソロジー®」や軽運動
	ロート製薬株式会社	日常生活をサポートする手袋やサポーター（仮称）
生活支援全般	株式会社ソフトデバイス	スケジュール管理を支援する「日めくりカレンダーアプリ yottey(ヨッティ)」
	株式会社LIMNO	自らの意思による自分らしい生活をサポートするタブレットソリューション「ヘルプタブレット（仮称）」
	株式会社コスモテック	いつでもどこでもメモができ、自然に目に入って思い出せる、手首に巻きつける“身につけるメモ帳”「wemo」
	アデツソ株式会社	日付・曜日の表示が大きい「デジタル日めくりカレンダー」
旅行	合同会社トラベルケアふくおか	介護付き旅行／トラベルケアふくおか／認知症の方が、観光案内ガイドで福岡の魅力を伝える旅行サービス
	豊橋鉄道株式会社	安心して楽しめる日帰りバスツアー
	株式会社小谷常	ユニバーサルツーリズムを提供する旅館「水屋敷」での宿泊サービスと就労支援

# 各社が開発している製品・サービスの概要（3 / 3）

- 前頁の続き。

生活課題	企業・団体名	開発している製品・サービスの概要
コミュニケーション・交流	Hubbit株式会社	認知症の方も利用できる話せる伝言板「ケアビー」
	ユカイ工学株式会社	予定のお知らせなど、日々の暮らしを声でサポートする可愛いロボット「BOCCO emo（ボッコ エモ）」
	ユニバーサル・サウンドデザイン株式会社	独自の特許技術「SoninBrain」を採用した聴覚支援機器「コミュニケーション」「コミュニケーションポケット」
	ノックオンザドア株式会社	同じ境遇の仲間や悩みを相談できる専門家と繋がることのできるオンラインサービス
	みまもりあいプロジェクト	「地域共生支援アプリ」を活用した、1人でいても、ひとりぼっちにしない「福祉SNS」
	株式会社日立ソリューションズ	誰もが不安なく日々の生活を送るためのシニアに向けた対話型のAIサービス
	株式会社シーエーシー	当事者同士およびその他の人とのコミュニケーション創出サービス
	株式会社ビークル	日々のできごとを写真とセットで記入して、記憶を手帳に記録する形で保持する「おぼえている手帳」
	象印マホービン株式会社	家族が離れて暮らしていても、安心して一人で生活するための支援サービス
美容・衛生	一般社団法人日本介護美容セラピスト協会	どなたでも、いくつになっても、使いやすい・続けやすい高保湿スキンケア「momote（モモテ）」
	牛乳石鹸共進社株式会社	コップ一杯の水で爽快な湯あがりを提供する『YUAGARI』 ポータブル洗髪機&洗浄剤
金融・財産管理	株式会社太陽生命少子高齢社会研究所	「認知症保険の太陽生命」においてより良いサービスを効果的にお客様にご紹介する仕組みの検討
	株式会社北國銀行	シンプルな機能と操作性でどなたでもスムーズに利用できる自社開発ATM「ホックタッチ」
その他	経済産業省	認知症の人と企業が製品を共創する「オレンジイノベーション・プロジェクト」等、認知症啓発活動
	一般社団法人つなぎ	警察OBが運営する送迎を中心とした生活サポートサービス
	株式会社COCO・WA・DOCO	電話に後付けできる特殊詐欺防止・生活支援システム（仮称）

# 【参考】開発している製品・サービスの例



- スケジュール管理を支援する  
分かりやすいデザインの  
「日めくりカレンダーアプリ」 yottey(ヨッテイ)



- 紙の日めくりカレンダーをデジタルで再現し、日付と曜日表示をメインとしたデジタル日めくりカレンダー。



- 空間認知を苦手とする方が安心して外出できるよう、家族の介護で移動支援するナビガイドサービス。



- かかとも、左右・前後も無い、履き口が分かりやすい、認知症の人にも履きやすい靴下



- いつでもどこでもメモができ、自然に目に入って思い出せる、手首に巻きつけて「身につけるメモ帳」 「wemo」



- 使いすぎ防止やワンタッチカード停止などの機能を搭載したキャッシュレスサービス



- 日々のできごとを写真とセットで記入して、記憶を手帳に記録する形で保持する「おぼえている手帳」



- 自然な聞こえを実現した最新の聴覚支援システム。イヤホン部と本体2つのマイクを搭載し、環境に合わせた自然な聞き取りを可能にする。



- 慣れ親しんだガス火調理をいつまでもシニア世代向けガスコンロ SAFULL+ (セーフルプラス) 視覚的な分かりやすさのためにカラーリング、デザイン等を工夫。

## かんたんコミュニケーションツール ケアびと



- 簡単な操作で、離れて暮らす家族等とのコミュニケーションや、趣味コンテンツを楽しめる専用アプリケーションがセットされたタブレットサービス。



- ボタン操作だけで使える可愛いロボット。ご家族との音声メッセージのやりとりや、服薬やゴミの日などのお知らせ機能を通じて、日々の暮らしをサポートする。



- 、脳の健康によい心拍数を把握しながら好きな運動や身体活動を行うことができるアプリ。



- 思い出の写真と楽しい会話でふたたび輝く「TEKODEKO RECOLLECTION 人生まるごと回想アルバム」

# パートナー団体の拡大（1 / 2）

- 日本認知症本人WG、認知症の人と家族の会、厚生労働省と連携し、開発に参画する認知症の人の募集にご協力いただくパートナー団体、自治体、介護事業者、医療機関等の拡大に向けた取組を実施。
- 令和6年11月時点で認知症の人112名、家族・支援者等61名が開発活動に参画。 ※今年度実績値

黒字：過年度より参画  
 青字：今年度より参画  
 （予定を含む）

## 自治体

- 京都府
- 兵庫県太子町
- 三重県四日市市

## 介護事業者

- 特別養護老人ホーム 六甲の館

## 医療機関

- 京都府こころのケアセンター  
若年性認知症支援チームおれんじブリッジ

## 当事者団体等

- 地域共生開発機構 ともつく
- レイの会
- NPO法人認知症の人とみんなのサポートセンター
- ひょうご認知症希望大使活動パートナー

## 自治体

- 鳥取県鳥取市

## 自治体

- 福岡県福岡市
- 福岡県宗像市
- 大分県

## 介護事業者

- ケアグループなでしこ

## 自治体

- 山形県天童市

## 自治体

- 静岡県三島市

## 当事者団体等

- NPO法人ニット

## 自治体

- 東京都八王子市
- 埼玉県さいたま市
- 神奈川県
- 神奈川県大和市、横須賀市

## 介護事業者

- 有限会社ハピア オレンジカフェH/V/H
- 100BLG株式会社
- NPO法人シニアライフセラピー研究所『亀吉』
- 社会福祉法人池上長寿園  
大田区若年性認知症支援相談窓口

## 医療機関

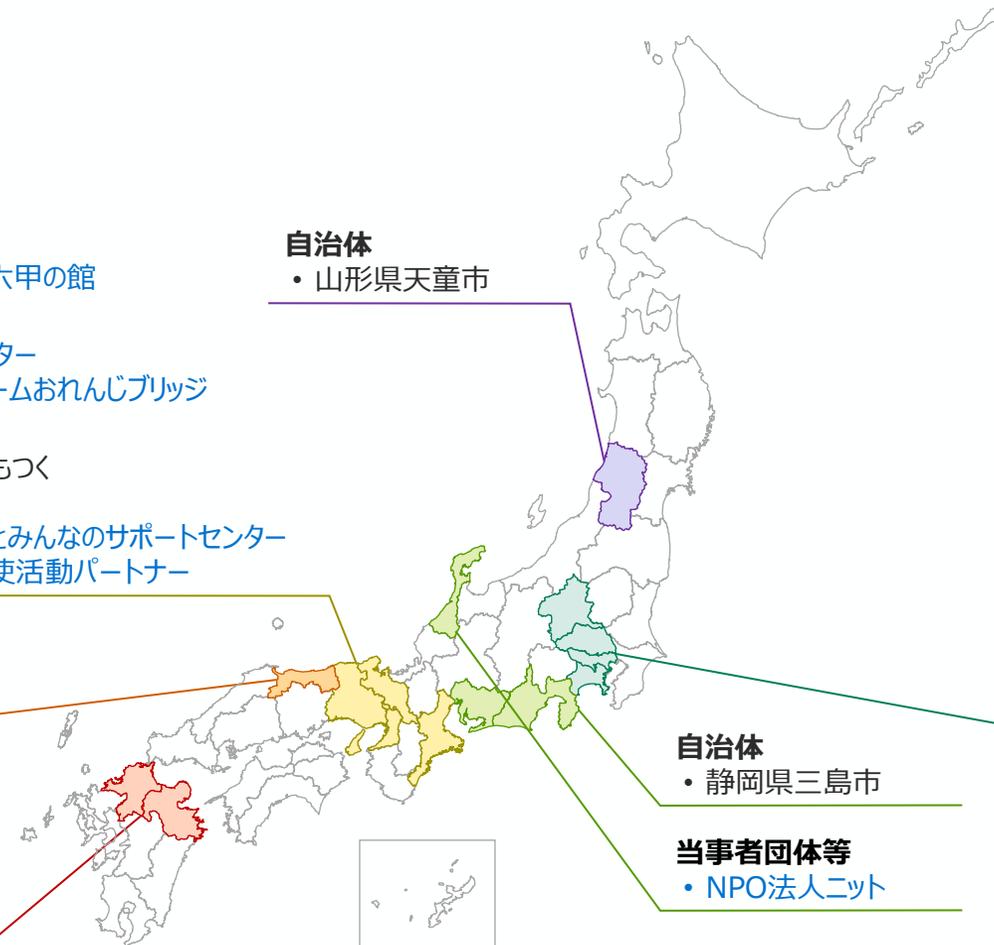
- 東京医科大学病院 認知症カフェ「認茶屋」

## 当事者団体等

- NPO法人マイway
- リンクカフェ
- さいたま市認知症フレンドリーまちづくりセンター
- わすれな草の会
- 一般社団法人ユニオン

## 当事者団体等

- JDWG
- 認知症の人と家族の会



# パートナー団体の拡大（2 / 2）

- 今年度は、昨年度まで連携実績が少なかった医療機関や介護事業者等との連携にも注力。
- 豊島株式会社は東京医科大学病院と連携し衣服や靴をテーマに、アデッソ株式会社はBLG八王子と連携し、デジタル日めくりカレンダーをテーマに、認知症の人とともに開発を推進中。

## 認知症疾患医療センターとの連携事例

### 東京医科大学病院 認知症カフェ「認茶屋」×豊島株式会社

- 日時：2024年9月11日（水）14：00～16：00
- 場所：東京医科大学病院 認知症カフェ「認茶屋」
- 参加者：認知症の人 2名、ご家族 2名  
豊島株式会社、大学病院関係者、事務局



デザイン、色・柄で着たいものが見当たらない。

企業側の工夫が当事者へ伝えきれていない。



使い勝手同様に安全性への配慮が欲しい。

機能面だけでなく洗濯時への配慮が欲しい。

## 介護事業者との連携事例

### BLG八王子×アデッソ株式会社

- 日時：2024年8月27日（火）14：00～15：30
- 場所：BLG八王子
- 参加者：BLG八王子メンバー（認知症の人） 8名  
アデッソ株式会社、BLG運営関係者、事務局



ゴミの日等の予定も分かりやすく表示して欲しい。

既存品はスイッチが小さく、操作が難しい。



ナショナルブランドのデジタル日めくりカレンダーを購入したが、機能が多すぎて使いこなせない。

# 実践事例：トヨタ自動車株式会社

- トヨタ自動車では誰もが不安なく外出できる徒歩用道案内サービス「ツギココ」を全国の100人以上の認知症の人とともに開発中。今年度、社会実装に向けた実証実験に認知症の人11名、ご家族等8名が参画。
- 今後も引き続き実証実験を進め、2025年度には小規模でも社会実装することを目指している。

## 特徴

お一人で外出する際に、迷う不安を低減できる徒歩ナビ

特徴  
1



特徴  
2



## 操作方法

①目的地をワンタッチで案内開始



②進む方向が矢印で表示される



③矢印の向きに身体を向け歩くだけで、地図を読まずに到着



## トヨタ自動車株式会社×福岡市「オレンジ人材バンク」



### 【実証に参加した感想（例）】

困ったら画面を見ればいいので、不安なくスースー歩けました。一人でお出かけは諦めていたけど知らない場所に自力で行ける。本当にこんなことが起こるんだ！とビックリ。

### 【改良に向けたご意見（例）】

- 案内の頻度が高い（間隔が短い）と煩わしいので使いたくなくなるかもしれない。
- 画面上にボタンが表示されていると、とりあえず押したくなってしまふ。
- 振動を感じづらいので案内に気づけないことがある。 ※福岡市以外でのご意見も含む

### 実証参加者のご意見を踏まえて、改良方針（2024年10月時点）

- 優先度に応じて、案内の強弱をつけることで煩わしさを回避する
- 振動を感じやすい時計用バンドを検討中
- ボタンを常時表示しておくのではなく、現在地や案内状況に応じて必要性が高い場合にのみボタンを表示する

# 実践事例：株式会社小谷常

- 小谷常は京都府京丹後市で病気や障がい等の有無にかかわらず、誰もが気兼ねなく宿泊できる旅館「水屋敷」を経営。ユニバーサルツーリズムに対応した施設やサービスの改良に向けた検討を認知症の人との対話を通じて実施。
- 同社は病気や障害のある方の雇用にも注力しており、軽度認知症の人の「就労」をテーマにした取組も推進中。

## 株式会社小谷常×京都府認知症応援大使

- 日時：2024年10月8日～10月9日 1泊2日
- 場所：『水屋敷』京都府京丹後市網野町小浜765
- 参加者：京都府認知症応援大使 1名、ご家族 1名 株式会社小谷常
- 実践内容：実際に宿泊してもらい、施設やサービスの内容について、チェックアウト前と帰宅後の計2回意見交換を実施。



### 【応援大使のご意見】

- 普段、ビジネスホテルに宿泊する際には客室が分からなくなることがあるので、必ず部屋番号の写真を撮る。今回は戸建てだったので迷いにくかったが、食事の帰りに少し迷いかけた際には、仲居さんが声掛けをしてくれ、スムーズでした。
- 室内の案内図やアイコン表示、周辺マップがあると良いと思う。
- 大浴場がある場合は着替えカゴに名前の紙などがあると助かる。

### 【ご家族のご意見】

- ほとんどの方は認知症になると旅行を諦めてしまう。
- 行けると思っていないので旅行のチラシも見なくなる。水屋敷の様に情報発信している所を見つけられれば行きやすくなる。

### 【ご意見を踏まえた対応（2024年10月時点）】

- 意見交換直後から、旅館全店に対して以下を周知・教育。  
○お客様から予約時に申告があった場合「何か配慮など必要か聞く」  
例) 客室について（入口近くがよいのか？ 静かな所がよいのか？）  
食事時間について（その日の予約状況によって座席指定など）
- お客様の症状によっては自分の脱衣荷物が分からなくなる事がある為、  
名前を紙に記入して、カゴにつけることができるようにする。  
※個人情報保護の為希望者のみ
- フロントはチェックイン時に気付いた事があれば仲居に伝達・入力する。
- 配膳時に気付いた事があれば申し送り書に記入

# 実践事例：経済産業省

- 経済産業省では、認知症の人との意見交換やワークショップ等を通じて、「オレンジイノベーション・プロジェクト」をはじめとした認知症の啓発活動をさらに良いものにするための方策の検討を実施。
- 神奈川県と八王子在住の認知症の人と計5回、延べ32名と実践を行い、成果物※を制作。※次頁参照

<b>取組名</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>認知症の人と企業が製品を共創する「オレンジイノベーション・プロジェクト」等、認知症啓発活動</li> </ul>
<b>実践内容</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>認知症の人との意見交換やワークショップ等を通じて、「オレンジイノベーション・プロジェクト」をはじめとした認知症の啓発活動をさらに良いものにするための方策の検討を実施。</li> </ul>
<b>参画した認知症の人</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>かながわオレンジ大使（認知症本人大使）</li> <li>八王子市の認知症カフェ等に参加している認知症の人</li> </ul>
<b>実践日</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2024年1月29日 @かながわ県民センター 【2名】</li> <li>2024年2月21日 @高齢者あんしん相談センター 追分 【8名】</li> <li>2024年3月11日 @八王子市中央図書館 【8名】</li> <li>2024年5月23日 @高齢者あんしん相談センター 追分 【8名】</li> <li>2024年7月4日 @高齢者あんしん相談センター 追分 【6名】</li> </ul> <p>※【】内の数値は参画した認知症の人の人数</p>
<b>当事者からの声</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>天気や時間に左右されないものが良い</li> <li>ドレスアップによって、認知症の理解促進につながるのか他の手法も検討するべき</li> <li>単発ではなく、毎月のように継続的にイベントや発信を行っていくことが重要</li> <li>認知症であることを知られたくないけど、分かってほしいという複雑な気持ちがある</li> <li>認知症の人にとって生きやすい社会は誰にとっても生きやすい社会だと思う 等</li> </ul>



# 【参考】 経済産業省実践の成果物

- 経済産業省では前頁の当事者との共創の成果物としてオレンジイノベーション・プロジェクトのPR用のバックパネルを制作し、イベント等で広く活用中。

## 認知症の人とともに制作した成果物（バックパネル）



# 「当事者発信」の取組：実施状況

- 昨年度より、認知症の人が企業に対してどのような製品・サービスを開発してほしいか等を提案する「当事者発信」の取組を開始。今年度も取組を継続するとともに、昨年度の実践を通じて得た認知症の人の声を企業公募等にも活用した。

## ①当事者発信

認知症の人 → 企業

認知症の人が企業に対して、  
どのような製品・サービスを開発してほしいか、  
どのような企業に開発してほしいかを提案する

2023年度から開始



## ②企業発信

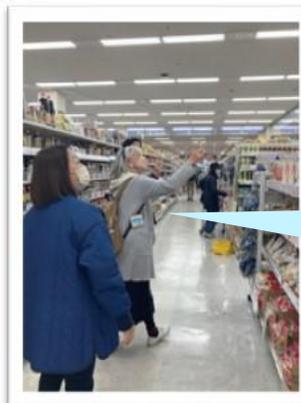
認知症の人 ← 企業

製品・サービスの開発を行いたいと  
考えている企業と認知症の人をマッチングする

2020年度頃から開始

### 「当事者発信」の取組事例（2023年度実施） 鳥取市の本人ミーティング×イオンモール鳥取北店

#### 散策のご様子



認知症の人とともにイオンモール  
鳥取北店を見て回り、互いに  
気付いた点等に関して対話を実施

案内表示が上の方にあり、  
商品棚に隠れてしまっていて、見つけにくい。  
案内表示の文字や標識の文字が小さい。

#### ティータイムのご様子



靴のファスナーのつまみが小さく、  
本体と同じ色でわかりにくい。  
開け閉めがしやすいファスナーがほしい。

着脱しやすく、おしゃれなボタンもあるが、  
マジックテープで留めることができる服がほしい。

# 「当事者発信」の取組：YKK株式会社の取組

- 「当事者発信」の取組で「開けやすいファスナー」を期待する声があったことから、同社にプロジェクトへの参画を打診。自社の製品・技術が認知症の人の生活課題の解決に役立つことを知り、参画を決定。
- 大阪府北区の在宅デイサービスセンターかみやま倶楽部、鳥取県鳥取市の本人ミーティング等に参加する認知症の人とともに開発を実施中。

第二弾 No.15 誰でも開け閉めがしやすいファスナー

## 誰でも開け閉めがしやすいファスナーの商品開発に協力いただける方を募集しています

「衣類などのファスナー開け閉め」の体験会を実施します

従来と変わらず生活が出来る環境をサポートする為、より良いファスナー等の商品の将来的な提供に向け、ご意見を伺いたいと思っております。皆さまのご意見・ご感想をお聞かせください。

**通常スライダー** **挿入補助スライダー** **挿入口が広く見えやすいスライダー**

スライダー開口部の下面を大きくすることで、従来より広い角度からファスナーを差し込みやすくしています。

**オープンファスナーの挿入を補助するパーツ**

オープンファスナーの挿入を補助し、操作性の向上を目的とした後付樹脂パーツです。

**マグネットの磁力により開具が引き合うファスナー**

左右の開具にマグネットが内蔵されており、マグネットの引き合う力で開具が簡単に組み合います。

・YKKからの事前の承諾なく、転載・複製・改変等は禁止します。

## YKK株式会社×大阪府北区在宅デイサービスセンター かみやま倶楽部

- 日時：2024年10月23日（水）13：30～14：30
- 場所：北区在宅デイサービスセンター かみやま倶楽部（大阪府大阪市北区神山町）
- 参加者：認知症の人 3名、家族・支援者 2名、YKK株式会社、事務局



### 当事者の声

衣料、ポーチ等でファスナーの開け閉めを自身で行いたいが、初期動作、開け閉めで、手が思うとおり動かず、上手く扱えない。自身でファスナー付きの製品を扱えるようになれば嬉しい。

### 企業担当者の声

ファスナーの開け閉めが少しずつ難しい要因がいくつも重なり扱えなくなっている事を当事者の皆様との協働により改めて知った。

ファスナーの付いた製品の使用を諦めない方法を当事者の皆様と引き続き検討したい。

# 採択企業向け講座・研修の実施

- 日本認知症本人WG、issue+design、100BLG株式会社と連携し、認知症の人と企業の共創支援の一環として、企業担当者を対象とした講座・研修を今年度より開始。
- 7月に座学形式の講座、10月に介護事業所で認知症の人とともに1日を過ごす体験型研修を開催。

## 座学形式の講座（7月）

<主な内容>

- 企業の皆様へのメッセージ（日本認知症本人WG）
- 認知症の人の見えている世界や当事者とともに開発を進める際の心得等に関する講演、グループワーク（issue+design）



## 介護事業所に訪問しての体験型研修（10月）

<主な流れ>

- BLGの活動紹介や研修の目的等に関する事前説明会（オンライン）
  - 関東圏域のBLG介護事業所にて、当事者とともに各種活動に参加（実地）
  - 当事者とともに活動したことに関する振り返り・交流（オンライン）
- ※訪問先事業所：BLG町田、BLG横須賀、BLG相模原、BLG品川、BLG丹南



### 参加した企業担当者の声

- 認知症であるかどうかは関係なく、その人個人と対話することが重要だと感じた。今後の開発活動の中で色々な人と接すると思うが、その人自身と向き合っていくことを大切にしたい。
- 認知症の人だと思って特別に構えるのではなく、その方の気持ちに寄り添うようにお話を聞くことが大切だと感じた。まだ認知症に関して、知らないことも多いが、これからも知っていくことを続けたい。
- 一緒に何かに取り組むことで相手のことをよく理解できるということを体験を通じて学んだ。対話を大切に取り組んでいきたい。

# 情報発信イベントの実施状況：開催実績

- 本取組の市民向け普及啓発および企業のPR等を目的として、江東区、大和市で情報発信イベントを開催。
- 今後も関東・関西・九州等で自治体・団体等と連携したイベントを開催予定。

江東区	目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 市民向け普及啓発および参画企業のPR</li> </ul>
	内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 当事者参画型開発実践企業のブース出展</li> <li>• 認知症啓発に関するイベント・展示</li> <li>• 当事者や有識者の講演・トークセッション</li> </ul>
江東区	日時	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 2024年9月18日（水）10:00～17:00</li> </ul>
	会場	<ul style="list-style-type: none"> <li>• イトヨーカドー アリオ北砂店 リーフコート</li> </ul>
	開催主体	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 主催：日本認知症官民協議会 認知症イノベーションアライアンスワーキンググループ 事務局（経済産業省）</li> <li>• 協力：株式会社イトヨーカ堂</li> <li>• 後援：江東区</li> </ul>
大和市	日時	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 2024年9月26日（木）10:00～18:00</li> </ul>
	会場	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 大和市文化創造拠点シリウス サブホール</li> </ul>
	開催主体	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 主催：大和市、日本認知症官民協議会 認知症イノベーションアライアンスワーキンググループ 事務局（経済産業省）</li> <li>• 後援：神奈川県</li> </ul>

**入場無料**

認知症当事者とともにつくった製品・サービスが集まります!

## 認知症当事者とともに生きるわたし 誰もが生きやすい社会

～オレンジイノベーション・プロジェクト 開発製品展示会～

9/18 水 10:00～17:00

会場：イトヨーカドーアリオ北砂店 リーフコート

**企画展示**

「認知症とともに生きるわたし」写真展  
協力：下坂厚(京都府認知症広域大使) 株式会社朝日新聞社なごみある編集部、100BLC株式会社

認知症の人からの手紙展  
協力：一般社団法人 日本認知症本人ワーキンググループ 100BLC株式会社

**特別講演**

第一部 14:00～14:15  
オレンジイノベーション・プロジェクトってなに？～認知症の人と一緒に過ごせる、ちょっと便利な朝日～

第二部 14:15～14:45  
みんなより一足先に認知症になった“私”が伝える、認知症とともに生きること

100BLCメンバー 前田 隼行  
100BLC 株式会社 取締役

主催：日本認知症官民協議会 認知症イノベーションアライアンスワーキンググループ事務局（経済産業省）  
協力：株式会社イトヨーカ堂

オレンジイノベーション・プロジェクト 特設サイトはこちら！  
URL: <https://www.dementia-pr.com/>

**入場無料**

認知症当事者とともにつくった製品・サービスが集まります!

## 認知症当事者とともに生きるわたし 誰もが生きやすい社会

～オレンジイノベーション・プロジェクト 開発製品展示会～

9/26 木 10:00～18:00

会場：大和市文化創造拠点シリウス サブホール

**企画展示**

「認知症とともに生きるわたし」写真展  
協力：下坂厚(京都府認知症広域大使) 株式会社朝日新聞社なごみある編集部、100BLC株式会社

認知症の人からの手紙展  
協力：一般社団法人 日本認知症本人ワーキンググループ 100BLC株式会社

**交通アクセス**

小田急江ノ島線・相鉄本線 大和駅 徒歩3分

お車、自転車でお越しの場合は 有料駐留場・駐輪場をご利用いただけます。

**出展企業**

※出展企業は予告なく変更となる可能性がございますので、あらかじめご了承ください。

主催：日本認知症官民協議会 認知症イノベーションアライアンスワーキンググループ事務局（経済産業省）  
後援：神奈川県、大和市

オレンジイノベーション・プロジェクト 特設サイトはこちら！  
URL: <https://www.dementia-pr.com/>

# 情報発信イベントの実施状況：主な展示内容

- プロジェクトの理念を踏まえ、イベントの企画検討・各種展示コンテンツ制作は認知症の人とともに実施。
- 採択企業の製品展示に加え、認知症の人を交えた講演を行うほか、「共生社会」や「新しい認知症」を考えるきっかけとなるような「写真展」や「手紙展」等を実施。

## 「認知症とともに生きるわたし」写真展

- 認知症と診断されてからも、希望を持ちながら活躍する当事者たちの日々のワンシーンを収めた写真を展示  
制作協力：下坂厚（京都府認知症応援大使）  
株式会社朝日新聞社なかまある編集部、100BLG株式会社



### 写真展

## 「認知症とともに生きるわたし」

認知症になっても、人生の主人公は、わたし。  
前を向いて、社会の一員として、希望をもって暮らしています。  
できなくなったことよりも、できることに目を向け、  
やりたいことにチャレンジしていきます。  
それがきっと、いいひと時、いい一日、いい人生へとつながっていく。

この写真展では、認知症とともに生きる人々の人生の  
一瞬を切り取った写真を通じて、  
みなさんに、「新しい認知症観」を感じていただければと思います。

写真①②を撮影したのは、若年性認知症当事者の下坂厚さんです。  
かつてはフリーのカメラマンをしていたこともある下坂さんが、  
今の自分だからできることとして、  
やさしいまなざしで認知症の仲間を撮影しました。



<プロフィール>  
京都市在住。1973年6月生まれ。2019年8月、若年性アルツハイマー型認知症と診断される。認知症の自分から見えている世界を写真におさめ、SNSで積極的に発信している。京都府認知症応援大使、著書に「記憶とつなぐ 若年性認知症と向き合う私たちのこと」(双葉社)がある。

## 認知症の人からの手紙展

- 一足先に認知症になった当事者の人から、まだ認知症になっていないすべての人に向けた直筆の手紙を展示  
制作協力：一般社団法人認知症本人ワーキンググループ  
100BLG株式会社



## 「認知症の人からの手紙」展

この展示では、「一足先に認知症になったわたしたち本人(認知症の人)」から「これから認知症になる全ての人たち」に宛てた手紙を展示しています。  
この手紙は、わたしたち本人の体験や思いを言葉にしたものです。

わたしたち自身も、自分の力を活かして、大切にしたい暮らしを続け、社会の一員として、楽しみながらチャレンジしています。そうした人が少しずつ増えてきています。

この展示を通じて、社会に存在する先入観や偏見が変わっていくとともに、自分や大切な人が認知症になったときに「大切にしたい暮らし」を考えるきっかけとなることを期待しています。

そして、一人でも多くの方が、共生社会に向けた活動を仲間として一緒に進めてくれることを願っています。

協力：一般社団法人日本認知症本人ワーキンググループ 100BLG株式会社

# その他の広報・情報発信：メディア露出

- テレビ・新聞等のマスメディアにおいても本プロジェクトに関する情報発信が増加傾向。
- 認知症の人及び企業の関心喚起・参画促進に向けた広報・情報発信は今後も継続的に実施予定。

## 高齢者住宅新聞 (2024年9月25日号)

(9) 2024.9.25 (毎週水曜日発行) 高齢者住宅新聞

### 認知症関連、産業創出へ

日本総研/経産省

#### 当事者と企業で製品開発

【大阪】認知症の人と企業が協力を進め、新たな製品・サービスを共同開発する取り組みが広がっている。日本総研と経産省が連携して、認知症の人と企業が協力を進め、新たな製品・サービスを共同開発する取り組みが広がっている。日本総研と経産省が連携して、認知症の人と企業が協力を進め、新たな製品・サービスを共同開発する取り組みが広がっている。

## NHK おはよう日本 (2024年7月16日放送)

認知症をサポート

認知症の人をサポート 広がる新たな商品開発

ビジネス特集

<https://www3.nhk.or.jp/news/html/20240826/k10014559531000.html>

## NHK おはよう日本 (2024年10月8日放送)

### 認知症患者の視点が生み出すイノベーションとは?

24.10.08(火)

おは Biz

認知症の患者の視点で革新を

[https://www3.nhk.or.jp/news/contents/ohabiz/articles/2024\\_1008.html](https://www3.nhk.or.jp/news/contents/ohabiz/articles/2024_1008.html)

# その他の広報・情報発信：特設Webサイト、PR動画

- 昨年度開設した特設ウェブサイト（<https://dementia-pr.com/>）上での情報発信は継続中。
- 認知症の人や家族向けのPR動画（4分程度）を大和市の若年性認知症本人・家族会である「わすれな草の会」等と連携して今年度新たに制作。今後の各種PR活動に活用予定。

## 特設ウェブサイトの開設

経済産業省  
Ministry of Economy, Trade and Industry

ABOUT WORKSHOP ORGANIZATION CONTACT

オレンジイノベーション・プロジェクト  
～認知症当事者をつくる、誰もが生きやすい社会～

NEWS  
最新情報

2023.11.29 当事者参画体験ワークショップのページを更新しました。

2023.11.20 オレンジイノベーション・プロジェクト実行企業・団体を公開しました。

ABOUT  
概要

オレンジイノベーション・プロジェクトでは、  
認知症になっても自分らしく暮らし続けられる「共生」社会の実現を目指し、  
認知症の人が主体的に企業や社会等と関わり、  
認知症当事者の真のニーズをとらえた製品・サービスの開発を行う「当事者参画型開発」の普及と、  
その持続的な仕組みの実現に向けた取組を推進しています。  
本サイトでは、「当事者参画型開発」に関する様々な取組の内容を公開していきます。

特設ウェブサイトには下記  
QRコードからもアクセス可能



## PR動画の制作



# オレンジイノベーション・アワード2024の概要（1 / 2）

- 今年度、企業や団体等を対象とした表彰（オレンジイノベーション・アワード）を開催予定。

## オレンジイノベーション・アワードの概要（案）

目的	<ul style="list-style-type: none"><li>認知症の人の生活課題解決や、やりたいことの実現の助けとなる製品・サービスの開発が、様々な業界・領域にて推進され当事者参画型開発の認知が拡がり、共生社会が実現されることを目指し、開催するもの。</li></ul>
対象	<ul style="list-style-type: none"><li><b>認知症の人との共創のプロセスを重視し、そのプロセスや仕組み自体と、そのような過程を経てつくられたユーザーフレンドリーな製品やサービス。</b></li></ul>
賞の種類	<ul style="list-style-type: none"><li>最優秀賞（1組）、優秀賞（2～3組）、特別賞（3～5組）</li></ul>
スケジュール	<ul style="list-style-type: none"><li>応募期間：2024年11月26日（火）～2024年12月26日（木）</li><li>審査期間：2025年1月～2月上旬</li><li>受賞発表：2025年2月10日（月）予定</li><li>表彰式：2025年3月上旬予定</li></ul>
審査方法	<ul style="list-style-type: none"><li>一次審査：事務局が書面で審査</li><li>二次審査①：認知症の人による審査</li><li>二次審査②：家族、有識者等※による審査</li></ul> <p>※学識者、ビジネス・イノベーションに知見のある有識者、当事者の理解もありメディア・生活者からも認知のある文化人等を想定</p>
評価基準	<ul style="list-style-type: none"><li>当事者参画型開発において普遍的な視点となる下記を評価基準とする。<ul style="list-style-type: none"><li>①認知症の人の視点／意見が反映されているか</li><li>②独自性／独創性があるか</li><li>③認知症の人を含めた生活者のQOL向上にどれだけ寄与するか／期待されるか</li><li>④ほかの人たちにも薦めたいと思うか</li></ul></li></ul>

# オレンジイノベーション・アワード2024の概要（2 / 2）

- 表彰の実施に向け、ステートメントやロゴの制作も実施中。

## オレンジイノベーション・アワード ステートメント（案）

認知症及びMCI（軽度認知障害）の人の数は、2040年には合計約1,200万人（認知症約584万人、MCI約613万人）に達し、65歳以上の高齢者の約3.3人に1人を占めると推計されています。

誰でも認知症になりうる時代。  
製品やサービスは認知症の人を含めた使う人のことを考えて、  
使う人と「ともに」つくられるべきではないでしょうか。

オレンジイノベーション・アワードでは、  
認知症の人との共創のプロセスを重視し、そのプロセスや仕組み自体と、  
そのような過程を経てつくられたユーザーフレンドリーな製品やサービスを表彰していきます。

認知症であっても安心して、自分らしく暮らせる社会。  
それは、認知症でない人にとっても生きやすい社会です。  
オレンジイノベーション・アワードは、そんな社会の実現を目指します。

## オレンジイノベーション・アワード ロゴ（案）



認知症の人とともに  
**ORANGE  
INNOVATION  
AWARD**



# 当事者参画促進セッションの開催

- 昨年度に引き続き「当事者参画促進セッション」を設置し、より多く・より多様な当事者が自分に合ったやり方で安心して参画できるような体制づくりに関する検討を実施。

## 【設置目的】

- より多く・より多様な当事者が自分に合ったやり方で安心して参画できる体制づくり及び持続的な仕組みに関する検討を行う。

## 【開催日程】

- 第1回：令和6年10月18日（金）16：00～18：00

## 【主な議論事項】

- 本プロジェクトによって実現する社会像及び取組の方向性
- 事務局機能のあり方
- 企業向け手引きの改定方針 等

## 【当事者参画促進セッション 委員名簿 ※五十音順、敬称略】

氏名	ご所属
朝倉 完	SOMPOケア株式会社 ウェルビーイング事業部 認知症プロジェクト推進室長
笠井 浩一	福岡市 福祉局 ユマニチュード推進部 部長
笠原 航	神奈川県 福祉子どもみらい局 福祉部 高齢福祉課 高齢福祉グループ グループリーダー
鎌田 松代	公益社団法人認知症の人と家族の会 代表理事
栗田 駿一郎	日本医療政策機構（HGPI）シニアマネージャー
永田 久美子	社会福祉法人浴風会 認知症介護研究・研修東京センター 研究部 副センター長（兼）研究部長
成本 迅	京都府立医科大学大学院医学研究科精神機能病態学 教授
林 泰臣	ハクオンザドア株式会社 代表取締役
藤田 和子	一般社団法人日本認知症本人ワーキンググループ 代表理事
藤原 佳典	地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター研究所 副所長
堀田 聡子	慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科 教授

<オブザーバー> 厚生労働省 老健局 認知症施策・地域介護推進課

# 実現したい社会像及び必要な事項（案）

- 今後の取組の方向性の具体化に向け、日本認知症本人WG、認知症の人と家族の会との意見交換や当事者参画促進セッションでの議論を通じて、本プロジェクトによって実現したい「社会像」及びその「社会像の実現に向けて必要なこと」に関する整理を実施中。

## オレンジバージョン・プロジェクトによって実現したい社会像（案）

認知症の人のニーズや経験を反映した製品・サービスが身近にあり、  
誰もが、自分の力や個性を活かしながら、大切にしたい暮らしを続けることができる社会

## 上記の社会像の実現のための必要な事項（案）

- ① 多様な認知症の人が企業の開発に安心して参画し、声や思いを伝えることができること
- ② さまざまな地域で当事者参画型開発が実践されており、多くの認知症の人が開発に参画する機会があること
- ③ 認知症の人と企業の関係が「単発のもの（＝聞きっぱなし）」ではなく、適切なフィードバックが行われる「継続的なもの」であること
- ④ 認知症の人やその家族等の日々の生活に関わる多様な企業が当事者参画型開発を行っていること
- ⑤ 認知症の人とともに開発した製品・サービスにより、企業が十分な収益を上げることができていること
- ⑥ 自分にあつた製品・サービスを認知症の人やその家族等が日々の生活の中で気軽に購入・利用することができること

# ご意見をいただきたい事項

- 1.今年度の取組や実績を踏まえ、本取組の更なる普及・拡大や持続的な仕組みの構築に向けて、どのような取組が必要か。**
- 2.普及・拡大に向けた取組を引き続き進めていくにあたっての留意点等はあるか。**

# 【参考】 認知症施策推進基本計画における位置づけ

- 現在、国において検討が進む「認知症施策推進基本計画」において、認知症の人と家族等が企業の開発活動に参画することについて、基本的施策および重点目標の一部として盛り込まれている。

Ⅲ 基本的施策

2. 認知症の人の生活におけるバリアフリー化の増進

(4) 利用しやすい製品・サービスの開発・普及の促進

日本認知症官民協議会による官民連携の下、認知症の人が地域で生活する上で利用しやすい製品・サービスの開発・普及を認知症の人と家族等の参画の下、促進するため、モデル的取組を好事例として展開し、そうした取組が自主的、継続的に進むよう取り組む。

## 【重点目標3】

認知症の人・家族等が他の人々と支え合いながら地域で安心して暮らすことができること

プロセス指標	アウトプット指標	アウトカム指標
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 部署横断的に認知症施策の検討を実施している地方公共団体の数</li> <li>・ 認知症の人と家族等が参画した認知症施策の計画を策定し、その計画に達成すべき目標及び関連指標（KPI）を設定している地方公共団体の数</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 就労支援も含めて個別の相談・支援を実施していることを明示した認知症地域支援推進員や若年性認知症支援コーディネーターを設置している地方公共団体の数</li> <li>・ 認知症バリアフリー宣言を行った事業者の数</li> <li>・ 製品・サービスの開発に参画した認知症の人と家族等の人数</li> <li>・ 基本法の趣旨を踏まえた認知症ケアパスの作成・更新・周知を行っている市町村の数</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分の想いを伝えることができる家族、友人、仲間がいると感じる認知症の人の割合</li> <li>・ 地域で役割を果たしていると感じる認知症の人の割合</li> <li>・ 認知症の人が自分らしく暮らせると考える認知症の人及び国民の割合</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療・介護従事者に対して実施した認知症対応力向上研修の受講者数</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 認知症疾患医療センターにおける認知症関連疾患の鑑別診断件数</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 認知症の人の希望に沿った、保健医療サービス及び福祉サービスを受けていると考える認知症の人の割合</li> </ul>

# 当事者参画型開発モデルの推進

## 議題 2 : 企業向け手引きの改定について

# 企業向け手引き作成の経緯及び概要

- 2022年度に開発の実践から得た学びや本人、家族、有識者、企業担当者等へのヒアリングの成果をもとに、認知症の人と企業の共創に関するノウハウ等を整理した「当事者参画型開発の手引き」を作成・公開した。
- 手引き作成時点から実践事例の増加や「共生社会の実現を推進するための認知症基本法」の施行等、様々な変化が生じていることから、本手引きの見直しに関する検討を今年度実施中。

参考：手引きURL：[https://www.meti.go.jp/shingikai/mono\\_info\\_service/ninchisho\\_wg/pdf/2022\\_002\\_04\\_00.pdf](https://www.meti.go.jp/shingikai/mono_info_service/ninchisho_wg/pdf/2022_002_04_00.pdf)

## 対象者

- 認知症の人との共創・当事者参画型開発に取り組む企業の開発担当者、マーケティング担当者
- 上記のような立場の人々を支援する企業のリサーチャー・インタビュアー
- 認知症の人の支援団体や自治体の担当者等

## 目的、伝えたいこと

- 認知症の人と対話し、互いに心地よく、楽しみながら、当事者参画型開発を意義のあるものにしていくために必要な視点
- 「当事者参画型開発」に取り組む場合の方法論・ノウハウ

## 主な内容

- 当事者参画型開発の意義
- 認知症の基礎知識
- 当事者（本人）とご一緒するときのキホン
- 当事者参画の7つの手法
- 当事者参画型開発のプロセス、プロセスごとの留意点
- 参考情報

## 企業向け手引き イメージ

The image displays several pages from the 'Handbook for Enterprise' (企業向け手引き). The pages include:

- Page 1:** Introduction to the handbook, mentioning the Ministry of Economy, Trade and Industry and the Working Group on Dementia.
- Page 2:** A table of contents listing various sections and their page numbers.
- Page 3:** A section titled '当事者参画型開発をはじめるにあたってのキホン' (Basics for Starting Participant Involvement Development), featuring a cartoon character and numbered points.
- Page 4:** A section titled '一般的な開発プロセスと当事者参画型開発のプロセス' (General Development Process and Participant Involvement Development Process), showing a flowchart of the development process.
- Page 5:** A section titled '認知症の人に参画してもらう手法' (Methods for Involving People with Dementia), listing seven specific methods.
- Page 6:** A section titled '当事者参画の7つの手法' (7 Methods of Participant Involvement), detailing each method with illustrations.
- Page 7:** A section titled '当事者参画型開発のプロセス' (Participant Involvement Development Process), showing a detailed flowchart of the process.
- Page 8:** A section titled '当事者参画型開発の留意点' (Points to Note in Participant Involvement Development), listing various considerations.
- Page 9:** A section titled '参考情報' (Reference Information), listing various resources and organizations.

2022年度の制作時にヒアリング等にご協力いただいた関係者の皆様（所属・役職は当時のもの）

- ◆当事者参画の取組を実施している企業 4社
- ◆一般社団法人 日本認知症本人ワーキンググループ 代表理事 藤田 和子様 ◆株式会社マネーフォワード 執行役員CoPA Fintech研究所長 瀧 俊雄様
- ◆一般社団法人 日本認知症本人ワーキンググループ 丹野 智文様 ◆認知症介護研究・研修東京センター 研究部長 永田久美子様
- ◆公益社団法人 認知症の人と家族の会 代表理事 鈴木 森夫様 ◆京都府、福岡市、大和市、名古屋市 ご担当者様
- ◆慶應義塾大学大学院 健康マネジメント研究科 教授 堀田 聡子様 ◆NPO法人マイway ご担当者様

# 企業向け手引きの見直し方針（案）

- 手引きの基本的な構成は維持しつつ、当事者参画促進セッション等での議論も踏まえ、以下の見直しを行うことを想定。関係者へのヒアリング等も行いながら、年度末までに見直し版の制作を完了する。

## ① 新しい認知症観に関する記述の充実

- 「認知症施策推進基本計画」の内容等も踏まえ、「新しい認知症観」に関する記述を追記する。

## ② 認知症の基礎知識の再整理・記述の充実

## ③ 当事者参画型開発を行うことの企業にとっての意義・メリットに関する記述の充実

- 昨年度実施した経営面の効果検証の成果を踏まえ、売上やブランディング、社会への貢献、職員のモチベーション等に関するメリットを追記する。

## ④ 昨年度当事者参画促進セッションで整理した「理念」や「行動指針」の反映

- 詳細次頁に掲載。

## ⑤ これまでの実践をふまえた学び、具体的な事例の反映

- 休憩を挟む、入退室自由とする等の実践から得た学びや工夫を追記する。
- より身近に感じてもらえるように、企業の開発事例や体験記等を盛り込む。

# 【参考】 「理念」 及び 「具体的な行動指針」

- 昨年度、当事者参画促進セッションでの議論等を通じて、本プロジェクトの理念・具体的な行動指針を下記の通り設定。本年度の公募にあたり、企業に対して提示した。
- 下記の内容も今回の見直しに合わせて、手引きに反映予定。

理念	具体的な行動指針
① 認知症の人との出会いを 楽しみながら、まずやってみる	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ ハードルを高くしすぎず、まずチャレンジをしてみる</li> <li>✓ わからないことはその度にコミュニケーションをとることで解消をしていく</li> </ul>
② 「認知症」を一括りにしない	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 認知症について先入観やイメージがあることを自覚し、それに囚われない</li> <li>✓ 心地よく感じるやりとりや環境は人によって異なるため、一人ずつと相談しながら進める</li> <li>✓ 認知症の人だからといって身構えすぎたり、過度な配慮をしすぎるのではなく、目の前の当事者との傾聴・対話を重視し、認知症について必要な知識は、その都度学んでいく</li> </ul>
③ 認知症の人の意思を尊重する	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 認知症の人の話を聞くことから始める</li> <li>✓ 認知症の人に参画の同意を得る</li> <li>✓ 「認知症だからこうした方がいいはず」「これはできないだろうから周りが手助けしよう」などと勝手に決めつけない</li> <li>✓ 参画に対する正当な対価を支払う（謝金、試供品、ポイント等）</li> </ul>
④ 認知症の人と“チーム”として取り組む	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 認知症の人と企業が対等に納得のいく議論ができるように、一対一の関係性を築くことを大切にする</li> <li>✓ 認知症の人と取組の進捗を定期的に共有する</li> </ul>
⑤ 認知症の人に明確に 「伝える」・「伝わる」ことを意識する	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 認知症の人の希望に合わせて、パートナーが同行・同席できるようにする</li> <li>✓ 認知症の人が負担なく参画し、自分の考えを整理する時間を持てるよう、余裕のある計画を立てる</li> <li>✓ 企業向け手引きを参照し、負担の少ない空間づくり・わかりやすい資料づくりを心掛ける</li> </ul>

# ご意見をいただきたい事項

1. 企業にとってより効果的な手引きとするため、どのような内容を盛り込むべきか。
2. 今後の手引きの普及にあたってどのような取組や工夫が必要か。